

所属・資格 ドイツ文学科・教授

申請者氏名 浜野 明大

研究課題		中世ドイツ語圏文学作品における諸問題の再考とミヒャエル・ハネケの映像分析
報告の概要	研究目的 および 研究概要	中世ドイツ語圏文学作品でこれまで議論されてきたテーマは多岐に渡る。しかし、その議論が果たして本当に意義のある結論に至ったのかは精査する余地があると言える。そこで本研究では、とりわけドイツ語圏において議論されてきた諸問題をもう一度精査し、新たな観点での再考の可能性を模索する。また、オーストリアの映画監督であるミヒャエル・ハネケに関する最新の研究書などを蒐集し、この映画を多角的に分析することを試みたい。
	研究の結果	ドイツの学界でこれまで議論されてきたテーマに関する様々な文献や論文をこの1年間で精査した。その結果、とりわけアルブレヒト・フォン・ハルバーシュタットによるオヴィディウスのドイツ語改作『変身物語』受容と『古ザクセン語創世記』に焦点を当てることとした。これには以下のような理由が挙げられる：1. 古典小説の分野において、研究史は僧ランプレヒト『アレクサンダーの歌』やハインリヒ・フォン・フェルデケの『エネアス物語』（『エネイード』）に偏重しがちであった。しかし当然のことながら、古典小説はこれだけではない。アルブレヒト・フォン・ハルバーシュタットのオヴィディウスのドイツ語改作『変身物語』は、伝承されている写本の状態が非常に悪いためいささか等閑視されている傾向にあったが、研究対象として非常に興味深い。加えて、これは日本でもほとんど知られていない題材なゆえに、再考する意義が大いにあると考える。2. マグデブルク大学の Norbert Kössinger 教授から氏が 2020 年夏に主催する「古ザクセン語」の国際シンポジウムへの招聘があった。これを受けて、これまでの研究と関連させ『古ザクセン語創世記』を扱うこととした。
	研究の考察・反省	中世ドイツ語圏文学に関する様々な文献や論文を通読出来たことは何よりの成果だと言えよう。そこから、今までドイツの学界で等閑視されてきた重要性の高いテーマに至ることが出来たことも大きな意義のあったことと言える。しかしながら、準備に1年を要してしまい、これをすぐに研究発表や研究成果物として発信できなかったことには反省の余地があろう。これを踏まえ、慎重に研究の深化に努めると同時に、その発信の方法も様々な考えていくことを今後の課題としたい。（マグデブルク大学の Norbert Kössinger 教授から氏が 2020 年夏に主催する「古ザクセン語」の国際シンポジウムへの招聘があり、そこでの発表は決定している。しかし、それ以前にも他の場で、アルブレヒト・フォン・ハルバーシュタットのオヴィディウスのドイツ語改作『変身物語』に関する発信の可能性を模索するなど）
研究発表 学会名 発表テーマ 年月日/場所	研究成果物 テーマ 誌名 巻・号 発行年月日 発行所・者	※この欄は、本報告書提出時点で判明している事項についてご記入ください。 本年度の研究発表ならびに研究成果物は無い。これには以下の理由が挙げられる：1. 既述したように、本年度は文献や論文を通読する作業に終始した。よって、重要性のあるテーマに至るまでの研究準備期間であったと位置づける。2. 既に決定している予定として、これも上述した内容の重複となってしまうが、マグデブルク大学の Norbert Kössinger 教授から氏が 2020 年夏に主催する「古ザクセン語」の国際シンポジウムへの招聘があり、そこで発表することが決まっている。